

Eureka XI

六年制通信 №30 令和5年12月22日(金)号

除日起講

この「除日に講を起こす」も「学問の大禁忌は作輟なり」と並んで、三重中高に学ぶ生徒諸君の共通に知っている言葉であってほしいと思っています。繰り返しになりますが、除日は大晦日のこと。この日に「明日から学問を教えて下さい」と言ってきた若者に対し、林羅山が「明日を待つまでもなく今から勉強しなさい」と言って講義を始めたという逸話が残っているのです。「お正月から勉強しよう」ではなくて大晦日に机に向かう、皆さん、やってみませんか。と、言いながら、本当は大晦日を待つまでもなく今日から始めればいいわけで、「除日に講を起こす」とは大晦日まで何もしなくていいという意味ではありません。勉強しようという意欲があるのなら今から始めなさい、ということです。なるほど、このことはよく理解できます。問題は「勉強しようという意欲」は人に与えてもらうものではなく、自分の中から生まれる以外に手に入らないということです。なぜ勉強したいのか、これを本気になって自分に問うことです。ここを見つめなければ、ちょっと苦しくなると勉強を放棄してしまいますからね。

冬休みのおすすめ

・青山美智子 『お探し物は図書室まで』 (ポプラ文庫)

こういう本が読みたかった。私の読後の感想です。私が書くよりもよほど上手にまとめているので、本の裏表紙の推薦文を紹介します。

「お探し物は、本ですか？ 仕事ですか？ 人生ですか？」。仕事や人生に行き詰まりを感じている5人が訪れた、町の小さな図書室。彼らの背中を、不愛想だけど聞き上手な司書さんが、思いもよらない本のセレクトと可愛い付録で、後押しします。自分が本当に「探している物」に気がつき、明日への活力と希望が満ちていく物語。

いかがですか。そう言えば、小学生の頃は図書館ではなく図書室でしたね。小町さゆりという司書さんはバイマックスに似ているらしい。一言で言えば、推薦文の通り、年齢も性別も職業も違う5人の再生物語です。婦人服販売員(21歳女)、家具メーカー経理部(35歳男)、元雑誌編集者(40歳女)、ニート(30歳男)、定年退職(65歳男)がふとしたきっかけで図書室に足を運び、小町さんから何でこれを、という本を推薦され、かわいい付録をもらいます。連作短編ですから、最後の方は「あれ？この人あの人やよな。よかったやん」という設定があって、読者を喜ばせます。読后感抜群の本ですよ。強くお勧めいたします。青山さんの本はこれが初めてでした。今はデビュー作の『木曜日にはココアを』を読んでいます。

・藤崎 翔 『逆転美人』 (双葉文庫)

「ミステリー史上というか小説史上に残る伝説級超絶トリック」という触れ込みを信じて読んでみたのですが、p.234 までは、どこが伝説級やねん、むしろ文章とか語彙の選択に不自然なところを感じるし、内容も「美人で損なんですよ、皆さん」という程度の、美人であるがゆえにいじめにあたり騙されたりする物語で、反感を持たれることはあるかもしれませんが、別に物語に新鮮味もないし面白くないと思っていました。ところが「追記」に入った途端、あれ？あれ？の連続で、何と私が不自然に感じた言葉選びにもちゃんと意味があることがわかります。そして、この本自体に仕掛けられたトリックに「藤崎さん、さぞかしお疲れになったことでしょう。でも楽しかったんじゃないですか」と言いたくなりました。ちなみに私は泡坂妻夫の『しあわせの書』をマジック好きの先生に教えていただいたことがあります。この本も本自体にトリックが仕掛けてるので、もしや今回も同じ手を使ったのかと思ったのですが、藤崎さんのトリックの方が一枚上手でしたね。『逆転美人』を楽しんだら『しあわせの書』も手に取って見て下さい。私の言っている意味がわかりますよ。

・北原保雄 編 『問題な日本語』 (大修館書店)

そもそもタイトルの日本語は問題ないのか。北原先生はじめ『明鏡国語辞典』の編集者たちによる日本語診断書みたいな本です。面白いですよ。全 4 冊です。たぶん本屋さんで注文しないと手に入らないかもしれません。全国の高校の国語の先生方に「気になる日本語」を指摘してもらって、それらの用法を解説するという意図で作られた本です。「コーヒーの方をお持ちしました」とか「すごいおいしい」とか「こちら～になります」とか、私も確かに気になります。書き方では「やむおえない」なんて書く人もいるようで…。「使うのはどっち？」というコラムも面白いよ。独擅場 vs 独壇場、一獲千金 vs 一攫千金、人工受精 vs 人工授精など、さて君たちは即答できたかな。

「おビール」は変だけど「お酒」は普通に言いますね。お電話、お煎餅、お荷物など「お」をつけて丁寧に言う言葉はたくさんありますが、これらは電話、煎餅、荷物のように「お」を取っても通じます。でも、姉の「お下がり」なんか「下がり」で通じるのかなあ。「おひねり」も「ひねり」とは言わないし。う～む。「ご飯」とか「ご免」の「ご」も取れそうにないですね。「はん」、「めん」とは言わないもの。「めし」とは言うけど。言葉は変わっていきますからね。誤用が誤用でなくなる日が来るのでしょうか。

ちなみに私が子どもの頃、ですからもう 50 年程前ですが、当時の大人たちが言わなかった言葉で今は老若男女誰もが普通に使っているのは、質問された時の第一声に「そうですね…」と言う、あれです。当時は一般人がマスコミの取材を受けるとか、テレビに出るとか、そういうこともなかったですけどね。それから「もっと頑張らないといけないな、と思います」のように「～な、と思います」という言い方は幼児語とまでは言いませんが、大人の人は言いませんでした。子どもの物言いですよな。「もっと頑張ります」と大人は言っていました。それから、半世紀前の大人はもっと無口だったように思います。私の錯覚かもしれませんが話すスピードも今より遅かった気がします。

BGM は 山下達郎 の クリスマス・イブ でした…。